



元唄 貝がら節(青谷)

一 ヤンサノエー イヤサカ サツサ  
ハ、ヤーレ漕げ(ソリーヤ漕げ)  
ハ、ヤーレ漕げ(ソリーヤ漕げ)  
鷲峰山から沖あい 見れば  
(ハ、ソコダガノー ソコダガノー)

あれが 青谷か ころりや 夏泊  
(ハ、ヤンサ ホーエヤ)  
(ホーエヤ エーエ イヤサカ サツサ)  
(ヤンサノ エーエ イヤサカ サツサ)

四 ハ、ヤーレ漕げ(ソリーヤ漕げ)  
ハ、ヤーレ漕げ(ソリーヤ漕げ)  
辛い稼業の 貝がら ころりは  
(ハ、ソコダガノー ソコダガノー)

波のしづきをよー朝から浴びてよー  
肌は赤銅かよーあーあ黄金色だよー  
がきや かかあの、ころりや飯のたね  
(ハ、ヤンサ ホーエヤ)  
(ホーエヤ エーエ イヤサカ サツサ)  
(ヤンサノ エーエ イヤサカ サツサ)

二 ハ、ヤーレ漕げ(ソリーヤ漕げ)  
ハ、ヤーレ漕げ(ソリーヤ漕げ)  
青谷の沖から 貝がらが招く  
(ハ、ソコダガノー ソコダガノー)

かかよ 飯炊けころりや 出にやならぬ  
(ハ、ヤンサ ホーエヤ)  
(ホーエヤ エーエ イヤサカ サツサ)  
(ヤンサノ エーエ イヤサカ サツサ)

五 ハ、ヤーレ漕げ(ハ、ソリーヤ漕げ)  
ハ、もう一つ漕いだ(ソリーヤ漕いだ)  
戻る船路は 櫓権が 勇む  
(ハ、ソコダガノー ソコダガノー)

浜じや 妻子が ころりや 待つわいな  
(ハ、ヤンサ ホーエヤ)  
(ホーエヤ エーエ イヤサカ サツサ)  
(ヤンサノ エーエ イヤサカ サツサ)

三 ハ、ヤーレ漕げ(ハ、ソリーヤ漕げ)  
ハ、ヤーレ漕げ(ハ、ソリーヤ漕げ)  
何の因果で 貝がら漕ぎ なさる  
(ハ、ソコダガノー ソコダガノー)

色は黒なる ころりや 身はやせる  
(ハ、ヤンサ ホーエヤ)  
(ホーエヤ エーエ イヤサカ サツサ)  
(ヤンサノ エーエ イヤサカ サツサ)

六 ハ、ヤーレ漕げ(ソリーヤ漕げ)  
ハ、ヤーレ漕げ(ソリーヤ漕げ)  
青谷の港は 貝がらの 山よ  
(ハ、ソコダガノー ソコダガノー)

大山お山ところりや 背いくらへ  
(ハ、ヤンサ ホーエヤ)  
(ホーエヤ エーエ イヤサカ サツサ)  
(ヤンサノ エーエ イヤサカ サツサ)

「波のしづきをよー朝から浴びてよー  
黒い地肌によーあーあ潮の華だよー

もう一つ漕いだ  
そーりやころりだ